

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を理解し、理念に基づいたサービスが提供できるよう実践中である。	理念について施設長が会議等で入居者本位のサービス提供や入居者に寄り添うという意味から「毎朝、入居者の手を握りましょうそして冷たかったら温めましょう」と具体的な言葉で語り、周知徹底と意識づけをしている。職員は理念を理解しており自分の言葉で語ることができる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事には、健康状態を考慮して、出来るだけ参加するよう心がけている。日常的な散歩、買い物に出かけ、地域の人達に挨拶を交わしたり、話したり、触れ合う機会をつくっている。	町会に加入し会費を納め、清掃などの活動にも参加し、住民との関りを深めている。市内のある高校の研修とボランティアを受け入れている関係からホームの夏祭りには同校の吹奏楽部も参加するなど賑やかな催しとなった。ホームでは入居者が幅広い年齢層とも触れ合えるようにいつも心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアの啓発に努めている。人材育成貢献として、実習生の受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今後も積極的に取組み地域密着型のサービスとしての役割を果たして行きたい。運営推進委員会で取り上げられた検討事項等、経過を報告しあい、一つ一つ構築していきたい。	家族代表、民生委員、町会長、包括支援センター職員等をメンバーに2ヶ月に1回開催している。ホームから活動や今後の予定などを報告し、参加者との意見交換や要望を頂いている。会議で話し合われたことは職員に報告されサービス向上に活かしている。今後の会議では地域防災協定を結ぶ件についても議題として取り上げる意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	判断困難な時は相談に伺っている。認定更新の機会等に市町村担当者へ利用者の暮らしぶりを具体的に伝え、連携を深めるよう心がけている。	市担当者や地域包括支援センター職員とは気軽に連絡を取り合うことが出来ており、いつも親身になり問題解決に取り組んでもらっている。包括支援センター職員は毎月来訪し、「何かありますか」と声を掛けてくれている。市の介護相談員が毎月2名訪問し入居者の暮らしの様子や話しなどを伺っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等を通じ職員間で確認し、厳守するようにしている。	玄関の施錠を含め、身体拘束や行動制限をしないケアを実践している。外出傾向の入居者には職員の声かけや対応で行動を妨げない、気分を書さない支援を提供している。居心地良く伸び伸びと入居者がいつも自宅で暮しているように全職員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を通じ職員間で確認し、厳守するようにしている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに説明を行っているが、実際に必要とされる利用者が居ないため、理解はまだ無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を取って説明している。特に利用料金や起こりえるリスク、重度化の看取りについて、当事業所の考え、医療体制について説明して同意を得ている。当事業所のケアに関する取組みについても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情設置箱を玄関フロアに設けている。又来所時家族等の意見を聞き、苦情を受けた時は、発生原因を探り課題を検討して改善に向けている。	入居者からの意見や要望は日々の会話等から聴き取っている。家族の来訪時には本人の様子を報告しながら気軽に話せる雰囲気づくりに努め話を伺っている。玄関の苦情箱の活用はなく家族等は直接職員に伝えている。頂いた意見や要望は会議で検討し運営に反映させている。サンライズ里山辺新聞の発行については更に内容を充実させ、今後回数を増やしていきたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会をそれぞれ月一回行い、意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞きだしたりしている。	会議はユニット毎で行っている。職員は日頃考えていることや入居者に関わっての気づきなどを出し合い積極的に意見交換している。ミーティングや勉強会においても熱心に話を聞き、自分の思いや考えをしっかりと伝えている。管理者と職員は「質の高い創造的サービスの提供」を常に意識し熱心に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も月一回の責任者会議、ミーティングに参加して、事業所の状態、職員の悩みを聞き、改善に向けている。職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意思を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、事業所内研修にはなるべく多くの職員が受講できるようようにしている。それらの研修報告は毎月の全体会議で、伝達講習をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区の事業所と交流を持ち、バイオリンコンサート、研修会、夏祭り行事に案内を頂き参加させて頂いている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、ご本人様、ご家族様等の思いや生活状況を把握し、入居時には安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームではどのような対応が出来るのか事前に話し合いをしている。相談する家族の立場に立って、話をしっかり聴きながら、受け止めながら関係を築きたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用開始前の事前相談などの機会には、必ずご本人にとってグループホームでの生活及びケアが最善であるのか慎重に見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にするという共有の意識の中で、人として先輩を敬い、生活の中で教えて頂く事の大切さ、またご本人様は教えることで生活を楽しみ、ご自分を再確認出来るよう、なにごとも双方方向に向けた声かけ行動を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご利用者様を自分の家族と同じように思っていることをご家族に伝え、此処での生活をより良いものにするよう、話しあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一番は家族と共に過ごせる時間を作って頂く為に外泊のセッティングや、友人・知人が気楽に訪れて頂けるように心がけている。又、馴染みの場所などは、外出などの折に、なるべく訪れるようにしている。	家族以外に入居前のカラオケや踊りの友達、一緒に働いた仲間、従業員などが訪問し思い出話に花を咲かせている。家族の都合でお墓参りが出来ない時は施設長が付き添い本人を安心させている。お盆や年末に帰省する方や2日毎に自宅へ戻り昼食をとってくる方もいる。馴染みの場所や人との関係が入居後も変わらず継続できるようにホームはできる限りの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が自然と助け合い、喜び、悲しみを分かち合えるような声掛けや、たまには利用者様の間に入り、繋ぎの役目をしている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方にも、様子を聞いたり、ご家族の方の話も聞いて、相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの関りの中で話しを聞いたり、又、あまり話たがらない利用者様には、ご家族の方に聞いたりして把握しようと努めている。	一人ひとりの思いや希望、意向などについて職員は常に関心を持ち把握に努めている。入居者の多くは言葉や仕草で意思表示が出来るが、難しい場合には今までの暮らしぶりなどから本人本位に検討している。自ら自宅に帰りたいたいという入居者はいないが、自宅に帰っても反応がない入居者がホームに戻った途端にホッとした表情を見せることに複雑な想いを抱く家族もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中でご本人様、ご家族に聞いて把握に努めている。又、入所後も日々の話の中からヒントを得られるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとり違う生活リズムを一緒に生活する中で感じ取り把握している。そしてユニット全体の中でどう調和していくか常に考えながら行動している。生活を共にするという中で心身状態や、出来ること・できない事を察知するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのカンファレンス・アセスメントをへてケアプランの作成・変更を行っている。3ヶ月に1度ご家族・支援者には密に連絡し、その意見を聞き参考にしている。	本人や家族の意向を基に個別のケアプランが作成されている。各フロア毎の「健康管理&ケアプラン実施記録表」は一日1枚が図表化されており、生活や身体状況が記録され、ケアプランの実施確認簿ともなっている。日々の実施結果を基に月ごとに評価し、変化があれば皆で話し合い臨機応変にケアプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のミーティングの中で、記録、情報の共有を行い細やかな。修正を行っている。又出社時には、記録を読み情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族の状況に応じ、通院支援等の対応を行っている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア等を活用して、日々、職員の足りない所を支援して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、利用前からの掛かり付け医の医療を受けられる様、ご家族と協力して通院介助を行っている。	かかりつけ医の往診は入居者毎に月1回あり、入居者の訪問診療や健康管理が行なわれている。必要に応じた医療機関への受診に際しては家族に報告し職員が付き添い、受診結果も必ず報告している。受診時の付き添いに関する時間が長時間になってきているため人員体制について今後の課題となっている。訪問看護ステーションとは24時間の連携体制が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と医療連携をとり、週1回の定期訪問の他24時間体制をとり、訪問の際には各利用者の健康管理、適切な医療サービスが受けられるよう支援している。又職員と看護師が緊密に相談できる関係は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	ご利用者が入院した時は、面会を重ね、情報の交換に努め、ご家族と連携し支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員全体でカンファレンスを行い、気持ち、ケアの統一を計り行っている。又、ご家族との話し合いも繰り返し行い、ご家族の気持ちを考慮しながら、出来るケアの説明を行っている。終末期ケアには医療機関と連携をとり、情報の交換を密にして取り組んでいる。	本人の状態を見ながら家族、医師、職員等関係者がその時々話し合い、本人や家族等が安心して納得できるように取り組んでいる。直前までホームで過ごし医療機関に移ってから最期を迎えた方もいる。以前には看取り支援も実践している。入居者が重度化した場合に係る指針はあり、契約時に本人、家族に説明している。	終末期のあり方に関する指針と同意書を作成されることを望みます。指針を全職員に周知されるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、夜間時の緊急時対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回～4回の火災訓練を行い、職員の危機意識を高め、実際の避難方法を検討している。町会の協力体制が得られるよう取り組んでいる。	消防署の指導を受けながら昼夜想定災害訓練を年4回実施しており全職員が昼夜を問わず2階・3階の入居者の避難誘導をできるようにしている。車椅子の方の搬送の仕方については最善の方法を模索中である。居室の入口には避難したかどうか支援者に分かるカードが取り付けられている。運営推進会議で防災訓練や災害時についての協力もお願いしている。スプリンクラーも設置されており、食品や介護用品の備蓄もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとり、個性が違うように声掛けの仕方 や対応も違い、誇りやプライバシーが損ねる ことがないよう、ミーティングの折、話し合 い、確認している。	声掛けは本人に分かり易い言葉で話しかけてお り、誘導や対応に関してはさりげなく行なわれてい る。入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライバ シーやプライドに配慮しながら支援している。個人 記録等の保管期間は定めていないが必要な場合 があるので長期保管としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	出来る限り、場面に応じて選択の幅を広げら れるよう、声掛けや気持ちを考えて行ってい る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、1人ひとりの 体調や気持ちに配慮しながら、その時の希 望を取り入れ、個々の流れは少し違って、 それぞれが上手く溶け合うような時間の流れ を作れるよう考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	朝の身だしなみ、化粧は本人の好みで支援 している。一部の利用者はご本人の望む理 容店に行かされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けなどは利用者様にも手 伝って頂いている。献立は利用者様の希望 を聞き、取り入れ食事を楽しく自分のもの として頂いている。	入居者の出来る範囲で下ごしらえ、テーブル拭き、 後片付けなどを手伝っている。テーブルに並ぶ料 理には家族等からの差し入れの旬の野菜もあり、 小鉢や大皿に彩り豊かに盛付けられ、食欲をそ る。入居者と職員は一緒にテーブルを囲み、談笑 しながら頂いていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	食事の量も個々に合わせて提供している。 献立の栄養バランスと彩りを考慮して、1人 ひとりの摂取量も把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを行ってい る。又、寝る時には、入れ歯洗浄剤に浸け義 歯の清潔に努めている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を把握し、促し誘導をして、トイレで排泄出来るよう支援している。そのことにより脱オムツに移行出来るよう取り組んでいる。	夜間のみオムツを当てている入居者も昼間は尿漏れ防止パンツにパットを使用している。一人ひとりの排泄パターンや仕草などを見ながら誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めている。立位困難な入居者には二人介助でトイレでの排泄を可能にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事など繊維質の多い野菜など多く摂るよう努めている。又足上げ運動や散歩など軽く身体を動かす運動を毎日取り入れている。特に水分の摂取量に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則は週2回の入浴を実施している。その他、汗を掻いたりした時はシャワー浴などをし、希望のある人は入浴も行う。入浴拒否のある人には、職員も一緒に入り、安心感を持ってもらえるよう工夫している。	入浴日や時間はおおまかに決めてはいるが本人の「お風呂に入りたい」気持ちを大切に希望に沿って支援している。湯加減を聞いたり、昔の話を聴いたり、歌と一緒に唄ったりと一人ひとりに合わせながら安心して楽しく入浴できるように心がけている。菖蒲湯、柚子湯など変わり湯の日もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量に配慮し、生活のリズムを整えるように努めている。眠剤を服用している方については、かかり付け医に、眠剤状況を不逐一報告し指示を仰いでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、その都度本人に手渡し服用を確認している。状態の変化時には、訪問看護・協力医療機関との連携を図れている。又、服薬管理表を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、自然と役割みたいなものが出来、体調など見ながら一緒に行き、終わるという充実感を感じてもらえると考えます。又、その日の利用者の気分に合わせ、手伝い、レクレーションなど利用者中心で話し合い、決めてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通じて季節感を感じられるよう、花見、紅葉、初詣、祭りなど外出を支援している。(行事として)。又、本人の希望に応じて散歩や買い物、ドライブなど、ちょっとした外出の支援も行っている。	日常的にはホーム周辺を散歩している。一人ひとりその日の希望に沿いながら本人が外出を楽しめる支援に取り組んでいる。歩行困難な入居者にも要望があれば積極的に外出支援している。外出行事として2ユニットで出かける時は福祉タクシーを利用している。ユニット毎での外出ではホームの車を使い、その日思いついた所やお仏壇に上げる花を買いに出かけるなど回数を多くしている。	

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には所持して頂き、買い物などの支払いもして頂いている(見守り)。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望により支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活の音や季節の香り、音、目、で楽しむことなどを、リビングや日常の中に取り入れる工夫をしている。	居間と食堂がワンフロアとなっており、その三方に居室が配置されている。壁には入居者のスナップ写真や入居者が元気な時に描いた絵などが飾られている。居間には9人がゆったりと腰を下ろすのに十分なソファや広さがあり、歌を唄ったり、テレビを見たり、職員とのおしゃべりを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやソファや和室にコタツを設け、自由に使えるスペースを確保して、それぞれ思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族との相談により、使い慣れた物、写真など、馴染みの物を持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	本人が落ち着いて居心地良く過ごせるように馴染みの家具や揺り椅子、大切な家族写真、お気に入りのたくさんの洋服、思い出の品などが持ち込まれており、入居者一人ひとりに応じた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとり皆違うので、その人の心身の状態に合わせて工夫するよう心がけている。又、混乱が繰り返し続くような時には、その原因を職員一同で話し合い、なるべく取り除き、環境の整備に努めている。		